

朝晩の涼しさが、秋を感じさせますね。学園通りのけやきの木も、早いものは少しずつ色づき始めてきました。図書室では、「読書の秋」に向けて、新しい本をたくさん入れました！



1. 2019年度7~9月の貸出数

学年	中1	中2	中3	高1	高2	高3	合計
7月	95	81	62	71	179	35	523
8月	9	18	39	48	30	7	151
9月	99	70	32	32	49	32	314
今年度累計	672	492	342	327	455	167	2455

夏休み前に、高校2年生がたくさん借りてくれました！ 7~9月の個人貸出数ランキングは、1位 22冊（中1-4）、2位 19冊（高2-1）、3位 17冊（中1-3、中3-4）、4位 15冊（中1-1、高2-2）、5位 14冊（中1-2）です。

2. お気に入りの本を教えてください！

誰だって読んで面白かった本は、ほかの人に薦めたくなるはず。そして、ほかの人が推している本は、やはり面白いと思うのです。あなたのおすすめをぜひ、教えてください。

先日、学校のウェブサイトが新しくなりました。図書室のページも、読書支援と探究支援を二本柱に、より見やすくなりました。その中の新コーナー「みんなでレビュー」というページに、つまたま生（と先生方）のおすすめ本のレビューを蓄積していきたいと考えています。

10年くらいかけて、まずは1000件を目指せたらいいな、と思っています。記入用紙はカウンターに用意しました。授業で書いて返却されたものを、そのまま持ち込んでかまいません。ときどき気楽な感じでお勧めを教えてください。

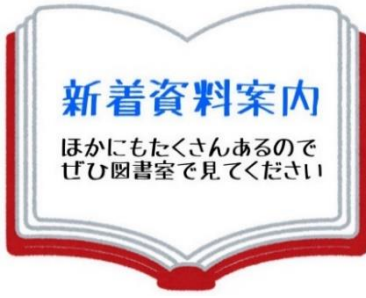


3. 予約・リクエストについて

借りたい本が図書室にあるか、貸出中かは、図書館内の検索機で調べることができます。ほかの人が借りている場合は、予約することもできます。また、ぜひ図書室に入れてほしいという本は、リクエストも受け付けています。ただし、リクエストした本が全て入るわけではありません。



先日リクエストで入ったのは、『猫町』（作:萩原朔太郎 イラスト:しきみ/立東社）です。摩訶不思議なめくるめく幻想の旅が、美しいイラストでいっそう魅力的に描かれています。同じシリーズの他の作品も入れました（太宰治『女生徒』『葉桜と魔笛』など）。現在は新着本の棚に並んでいます。その後はブラウジングコーナーに配架する予定です。



『はじめての世界一周』 吉田友和・松岡絵里 PHP 研究所 (290.9/Y86)

行けるものなら行ってみたい世界一周旅行。でも……お金はいくら必要？ 治安は大丈夫？ 何日かかる？ どういうルートで周ればいい？ 色々な疑問が出てくると思います。そんな疑問に、世界一周を2回経験した著者が答えてくれます。世界各地の絶景写真だけでなく、旅のエピソードが詰まっているので、世界一周旅行には行けなくても、行った気分を味わえる一冊です。



『日本の名詩、英語でおどる』アーサー・ピナード みすず書房 (911.568/B44)

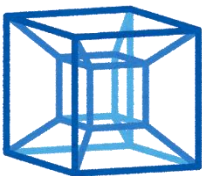
「ふるさととは遠きにありて思ふもの」これは室生犀星の「小景異情」の書き出しです。この「ふるさと」を「Hometown」に英訳すると、また違った風景が見えてきませんか？

原文と英訳が見開きになっています。単語を拾うだけでもイメージのひろがりを楽しめます。取り上げた26人の詩人についてのエッセイつきです。

◎作者アーサーさんは大の昆虫好き。日本の小学生が使うリード線入りのノートのマスに書かれた漢字を見て、「わ♡虫みたい♡」と思ったそうです。「非」「出」「罪」…確かに…。



『数学デッサン教室～描いて楽しむ数学のかたち』瑞慶山香佳 技術評論社 (725/Z6)



数学で出会うさまざまなかたちの描き方を教えてくれます。じっくり形を観察し、何を感じ、どのように見えたのかを描いて表現することが、数学のデッサンです。数学の授業との関連はありませんが、数学と美術はつながっていることを考えずにはいられない本です。デッサンが上手になりたい人はぜひ手に取ってみて下さいね。

『世界5大宗教全史』 中村圭志

ディスカヴァー・トゥエンティワン (162/N37)

世界5大宗教である、仏教、キリスト教、イスラム教、ユダヤ教、ヒンドゥー教の要点をイラストと写真でわかりやすく説明した一冊です。キリスト教・イスラム教・ユダヤ教の意外な共通点や、日本仏教の特徴、ラマダーンについてなど、異文化理解に欠かせない宗教のことをざっくり学べます。宗教のことがちょっと分かれば、社会の授業をより楽しめるかも？



『PERSEPOLIS The story of a Childhood』

Marijane Satrapi (289.2/Sa87/1)

グラフィック・ノベルですが、イランの少女マルジがどのような幼少期を過ごしてきたのかを通じて、革命後のイランの状況が理解できる本です。その国の戦争、革命、宗教が人々にどのように影響を及ぼすのか感じることができます。英語版です。

『シリーズ 道徳を考える』(全3巻) 内田樹監修 かがわ出版 (150/Ko21)



「嘘」「正義」「ルール」「いじめ」「個性」「コミュニケーション」「学び」……これらのキーワードを内包する「道徳とはなにか」という大きな問いの答えを、思想家・内田樹が考え、語ります。「僕はこう思う」という率直な語り口に、読み手も、当事者としてどう考えるかを問われているように感じます。内田先生でも「手強い言葉」だという「道徳」、あなたはどんな風にとらえていますか？